

## 医師専門医資格取得の男女差と医療現場の課題

一橋大学  
臼井恵美子

一橋大学  
羽衣杉雄

### 【要旨】

本研究では、厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」の医師届出票に基づき、医師免許取得以降の医師のキャリア経路を追跡するデータを整備し、その上で、医師の診療科とその後の専門医資格取得へのキャリア経路を分析した。女性医師の割合が多い診療科（産婦人科、小児科、麻酔科）においては、医師として初期の段階で取得する基本領域の専門医の取得に関しては、女性医師の方が男性医師よりも取得する傾向が高く、男性医師の方は、初職とは別の診療科の基本領域の専門医を取得する傾向がある。一方、女性割合が低い水準にある診療科（外科、内科、脳神経外科）においては、基本領域の専門医についても、女性医師の方が男性医師よりも取得している傾向が低かった。すべての診療科において、男性医師に比べると女性医師は、より専門的なスキル獲得を示すサブスペシャリティ領域の専門医を取得している傾向が低かった。このような、専門医取得における男女の違いを踏まえると、女性医師が医師全体の2割を占め増加を続けている中、日本の医療現場が高スキル医師人材を確保し続けるためには新たな対応が求められる可能性がある。

---

一橋大学・経済研究所・臼井恵美子・usui@ier.hit-u.ac.jp

一橋大学・大学院社会学研究科・羽衣杉雄・sm191052@g.hit-u.ac.jp

\* 本稿の執筆にあたり、一橋大学・本田衛子氏から詳細なコメントをいただいた。本稿は、厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師届出票」を利用して独自に集計等を行ったものであり、厚生労働省が作成、公表している統計等とは異なる。

## 1. イントロダクション

女性医師が増えて医師全体の2割を占めている日本の医療現場において、男性医師と女性医師のキャリア形成を、男女の診療科選択や専門医資格の取得状況の違いに注目して分析する。長期的な女性医師の増加が予想されている状況のもと、男性医師と女性医師のキャリア形成の実態を検証することは喫緊の課題である。

医師国家試験に合格後、医師免許を取得し、医籍登録した医師には、2年間の臨床研修を修了したあと、専門医資格取得を目指す3~5年間の研修プログラムが用意されている<sup>1</sup>。専門医とは、その医師の保持するスキルのレベルを示す一つの指標といえ、男性医師と女性医師、それぞれの専門医取得状況の違いを分析することは、男女医師間のスキルのレベルや医療現場での役割の違いを分析するために有効であると考えられる。

本研究では、2年ごとに実施されている厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」(悉皆調査)の医師届出票を用いて、医籍登録番号などの情報を活用することによって、医師免許を取得してからの個々の医師のキャリア経路を追うことのできるようデータを整備した上で、医師の診療科とその後の専門医資格取得のキャリア経路について分析する。

本研究から以下のことが明らかになった。女性医師の割合が多い診療科(産婦人科、小児科、麻酔科)においては、医師が初期段階で取得する基本領域の専門医に関して、女性医師の方が男性医師よりも取得する傾向が高く、男性医師の方は、初職とは別の診療科の基本領域の専門医を取得する傾向がある。一方、女性割合が低い水準にある診療科(外科、内科、脳神経外科)においては、基本領域の専門医についても、女性医師の方が男性医師よりも取得している傾向が低かった。さらに、すべての診療科において、より専門的なスキルの獲得を要するサブスペシャリティ領域の専門医については、女性医師の方が男性医師よりも取得している傾向が低かった。すなわち、経験豊富な中堅キャリアの医師になる傾向は、女性医師は男性医師よりも低い。こうした専門医取得における男女医師の進路の違いにより、今後の日本の医療の現場における高スキル医師の人材確保が難しくなる可能性があるかもしれない。この懸念に対応するためには、女性医師の高度なスキル獲得の支援や、医療の現場で女性医師がさらに活躍しやすい環境の整備が求められると考えられる。

---

<sup>1</sup> 医学部卒業・医師免許取得後の主な「研修」には、①前期研修と②後期研修がある。①前期研修(臨床研修)は2004年から全医師必修であり、診療科に関わらず内科・外科・救急等の基礎を2年間で身につける。前期研修中の医師を臨床研修医と呼ぶ(矢崎2004)。②後期研修は、前期研修修了後の3~5年に任意で行うもので、各医師は特定の診療科に入り、専門的な知識を学ぶ。後期研修中の医師を専攻医と呼ぶ。厚生労働省は広告可能な専門医資格の外形基準として、5年以上の研修実施を求めている。そのため各基本領域の専門医の受験条件には、2年の前期研修に加え、後期研修で学会の定めるカリキュラムの3年以上の受講が定められている(堀江2005)。

## 2. 日本の専門医制度について

### 2.1 専門医制度の概要と資格の区分

専門医制度とは、医学各領域の学会が設定する資格制度で、「それぞれの診療領域における適切な教育を受けて、患者から信頼される標準的な医療を提供できる医師」（日本専門医機構 2014）と定義される「専門医」を認定するものである<sup>2</sup>。学会によっては、かつては「認定医」、「指導医」という名称も使われていた。1963年に日本麻酔学会が麻酔指導医の認定を開始したのが最初とされ、1973年には内科専門医、1974年には外科認定医の認定が始まった（増谷・武満 2015；山崎ほか 2004）。

ただし、戦後日本の医療制度は、医師はどの診療科を標榜しても構わないという自由標榜制の原則を重視したため、医師個人が保有する資格を患者向けに示すことには規制をかけていた。しかし、2002年に医療広告規制に関する厚生労働大臣告示が改正され、厚生労働省が定めた外形基準を満たす学術団体が認定する専門医資格について、広告が可能になった（酒井 2004）<sup>3, 4</sup>。各学会が申請書や制度に関する資料を厚生労働大臣に届け出て、審査の上で認可が決まる（亀甲 2002）。こうして広告可能になった専門医資格の取得状況が、2010年からの医師届出票で調査されており、本稿の分析で用いる<sup>5</sup>。

本稿で分析対象とするのは、2010年から2016年の医師届出票で調査された、54の専門医資格の保有の有無である。本分析ではこの54資格を、表1の「基本領域の専門医」16資格と「サブスペシャリティ領域の専門医」38資格の2種類に区別する。「基本領域の専門医」には基本的に、日本専門医制評価・認定機構（当時）が2010年8月現在で「基本領域専門医」と認めた資格が当てはまる（日本専門医制評価・認定機構 2010）。機構は当時、「基本領域専門医」として18資格を認定していた。このうち、精神科専門医は2013年に広告が可能になり、また、臨床検査専門医は広告可能の認可を受けていない。よって両資格は、2010年から2016年のすべての医師届出票に

---

<sup>2</sup> 2018年から後期研修が始まった新専門医制度では、各領域の学会が一次審査を行い、日本専門医機構が二次審査と認定を行うことになった（日本専門医機構 2017）。しかし本分析は2010年～2016年の専門医資格取得状況を分析対象とするため、本文では当時の制度設計を記述している。

<sup>3</sup> 1996年以降、広告規制の緩和が議論される中で、各学会が独自に設定してきた制度の統一が進められた。2002年に外科認定医が外科専門医に改められるなど、名称を「専門医」に統一する動きも進み（山崎ほか 2004）、2002年の広告規制緩和以降に広告可能と認定された制度はすべて「専門医」という名称を用いている。

<sup>4</sup> 病院の開設・管理・整備の方法などを定める医療法第6条の5は「文書その他いかなる方法によるを問わず、広告その他の医療を受ける者を誘引するための手段としての表示」を「広告」と表現している（2017年6月公布改正）。

<sup>5</sup> なお、医学系学会が医師個人に対して認定する「専門医」「認定医」という名称の資格制度の中には、厚生労働省から広告可能な資格としての認可を受けていないものも存在する（例えば心身医療専門医、産業衛生専門医など）。これらの取得状況は医師届出票の調査対象外であるため、本稿の分析にも含めない。

において調査されているものではないため、本分析の対象とはしない。そのため本分析の対象となる「基本領域の専門医」は16資格となる。基本領域の専門医は、内科、外科、産婦人科といった大枠の診療科ごとに、1つずつ設定されている。

一方、医師届出票で調査された資格のうち、「基本領域の専門医」に含まれない38資格はすべて、「サブスペシャリティ領域の専門医」と定義する<sup>6</sup>。サブスペシャリティ領域の専門医資格は特定の病気、臓器、検査法、治療法などに専門分化して設定されており、受験資格として基本領域の専門医の取得や一定の経験症例数が求められることも多い<sup>7</sup>。

こうしたことから本分析では、①基本領域の専門医資格の取得を、大枠の診療科における一通りの知識・技能を身に着けたとするキャリア形成の初期段階、②サブスペシャリティ領域の専門医資格の取得を、より専門分化したキャリア形成の中堅段階として捉え、それぞれの取得状況を分析する。

## 2.2 診療科と基本領域との対応

本研究では、医師の初職の診療科毎に、それぞれの医師が、初職と同じ基本領域の専門医資格を取得する可能性、及び、初職とは異なった基本領域の専門医資格を取得する可能性について分析する。そのため、従事する診療科と基本領域の専門医資格との対応が必要である。

2010年から2016年の医師届出票では、勤務する診療科について41の選択肢を設けている。これは基本領域の専門医資格の区分よりも細かい。そのため、この41の診療科を、表2のように基本領域の専門医ごとに分類する<sup>8</sup>。すなわち、本稿では、診療科を基本領域に対応させる。そして、初職の診療科を含む基本領域での基本領域の専門医取得と、初職の診療科を含まない基本領域での基本領域の専門医取得をする可能性について分析することによって、医師のキャリア形成の初期段階における状況を把握する。さらには、それぞれの初職の診療科ごとに、医師のキャリア形成の中堅段階の状況について理解するのに適しているサブスペシャリティ領域の専門医を取得す

---

<sup>6</sup> 日本専門医制評価・認定機構（当時）は、基本領域の専門医とは別に17の専門医制度を「Subspecialty領域専門医」として認定している（2010年8月現在）が、本分析ではこの認定の有無を考慮しない。そのため本分析における「サブスペシャリティ領域の専門医」には、「Subspecialty領域専門医」に認定された資格と認定されていない資格とが混在している。

<sup>7</sup> ただし、本分析が定義したサブスペシャリティ領域の専門医の中には、基本領域の専門医の取得を要件としない資格（核医学専門医など）や、基本領域の専門医資格である総合内科専門医より受験資格の低い内科認定医の取得で受験可能な資格（呼吸器専門医など）も存在する。こうした取得要件の差から、サブスペシャリティ領域の専門医に含まれる資格がすべて同等のスキルレベルを示すとは必ずしも言えない点は、本分析の課題として残されている。

<sup>8</sup> 2010年の医師届出票では、同年時点で広告可能であった55資格の取得有無が調査されているが、このうち「一般病院連携精神医学専門医」の取得状況については、筆者がデータ取得を失念したため、分析の対象外となっている。なお、形成外科専門医、リハビリテーション科専門医、病理専門医、救急科専門医については、それぞれの診療科の医師数が比較的少ないので、分析結果は本論文で表示しないこととする。

る可能性について分析する。

### 3. 医師届出票

医師になるには、医師国家試験に合格してから、氏名や本籍などを厚生労働省の帳簿に登録し、同省から医師免許の発行（医籍登録）を受ける。その際、個々の医師には医籍登録番号が付される。医師免許は更新手続きなしに保有し続けることができる資格であり、医籍登録番号は医師固有の番号となる。

厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」（悉皆調査）の医師届出票は2年ごとに実施されている。その目的は、医師の性別、年齢、業務の種別、従事場所及び診療科名等による分布を明らかにし、厚生労働行政の基礎資料を得ることである。医師届出票においては、医籍登録番号、性別、生年月日、医籍登録年月日、従事する診療科、業務の種別、専門医の取得等について個々の医師に質問している。

本稿では、医師届出票にある医籍登録番号、性別、生年、医籍登録年の医師個人固有の情報をIDとして、1994年から2016年の調査を統合することによって、医師個人のキャリア（従事する診療科、業務の種別、専門医の取得等）を追跡する。

医師のキャリアを追跡するためのデータを構築する方法を以下で説明する。まず、2000年以前の医師届出票においては、同一調査年において、同一の医籍登録番号の医師届出票が複数あったため、1つの調査年において、同一の医籍登録番号の医師届出票を1つに限定する。<sup>9</sup>同一医師により複数提出された医師届出票の中で、どの医師届出票を採用するかについては、厚生労働省が2000年（平成12年）の医師届出票の集計表を公表する際に用いた客体（同一の医籍登録番号の医師届出票の中で採用した医師届出票）の採用方法を参考に<sup>10</sup>。具体的には、同一医師により複数提出された医師届出票の中で、①病院の開設者又は法人の代表者、②介護老人保健施設の開設者又は法人の代表者、または、③診療所の開設者又は法人の代表者の、いずれかと回答した医師届出票を採用する。この方法では、業務の種別（開業医と勤務医）を比較した場合、開業医としての仕事を「主たるもの」と解釈する<sup>11</sup>。しかし、複数の医師届出票を提出した医師が、「複数の」施設の開設者や代表者である場合、その医師の「主たる業務」がどの病院・診療所の開設者又は

---

<sup>9</sup> 例えば、2000年においては、3.0%の医師が複数の医師届出票を提出していた。

<sup>10</sup> 昭和54年（1979年）から平成12年（2000年）の調査においては、同一の調査年において、同一の医籍登録番号が複数記録されている。そして、調査した各年において、厚生労働省がデータを整備する際どの医師届出票を採用したかを示す「客体コード」が付されている。平成14年（2002年）以降は、同一調査年において、同一の医籍登録番号が数件のみ記録されている。

<sup>11</sup> 医師届出票における業務の種別は、調査年によって区分は変動する。「病院の開設者」、「診療所の開設者」、「介護老人保健施設の開設者」を「開業医」とし、「病院の勤務者」、「診療所の勤務者」、「医育機関」、「介護老人保健施設の勤務者」、「臨床以外の医学の教育機関又は研究機関の勤務者」、「医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者」を「勤務医」とする。

代表者が分からないため、その医籍登録番号のデータは削除する。また、同一の医籍登録番号の複数の医師届出票において、開設者又は代表者が選択されておらず、「勤務医」となっている医師届出票が複数ある場合は、どの医師届出票の勤務先が主たるものか分からないため、その医籍登録番号のデータは削除する。

次に、同一医師による医師届出票を1つに限定したあと、1994年から2016年の医師届出票を統合する。そして、異なる調査年においても、医籍登録番号、性別、生年、医籍登録年が同一であったなら、同一医師として取り扱うこととする<sup>12</sup>。

本研究においては、医師のキャリア形成について分析するため、壮年層の医師における専門医取得状況に焦点を当てる。そのため、分析対象として、調査時点における年齢を30歳から50歳未満の医師、かつ、医籍登録時の年齢が26歳から40歳までの医師に限定する。同時に、調査年において、臨床研修医、外地在住、医師以外の仕事、及び、無業者と回答している場合や、従事する診療科が不詳な場合も、分析対象から削除する。

#### 4. 診療科について

医師届出票では、医師の従事する診療科について質問している。従事する診療科の区分は調査年によって変わっており、1980年は34区分あったのが、2016年には42区分に増えている。専門医制度の基本領域を踏まえ、また、個々の医師の診療科の時系列比較を可能とするため、診療科の区分は、下記の14の診療科に分類する。外科<sup>13</sup>、内科<sup>14</sup>、産婦人科（産婦人科、産科、婦人科）、泌尿器科（泌尿器科、性病科）、精神科、小児科、眼科、皮膚科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、脳神経外科、整形外科、形成外科・美容外科、その他の診療科（その他、リハビリテーション科、病理診断科、臨床検査科、救急科）、全科とする。医師届出票においては、1994年（平成6年）以

---

<sup>12</sup> 同一の医籍登録番号であっても、調査年によって異なる性別(1.8%)、異なる生年(0.9%)、異なる医師登録年(0.55%)を回答する医師が2.5%あり、それらのデータは除外した。

<sup>13</sup> ここでの「外科」は、医師届出票にある外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科（胃腸外科）、乳腺外科、気管食道外科、肛門外科、小児外科とする。

本研究における「外科」の区分として、専門医機構の外科領域を外科と考えて、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、気管食道外科、小児外科を「外科」として一つにまとめる。医師届出票の診療科区分には、「外科」という広範なものもあり、整形外科、形成外科、美容外科も、この「広範な外科」と回答している可能性がある。そのため、以下の外科の分析においては、この広範な外科を含めた場合を示す。広範な外科を含めなかった場合でも分析したが、同様の結果が得られた。

<sup>14</sup> ここでの「内科」は、医師届出票にある内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科（胃腸内科）、腎臓内科、神経内科、糖尿病内科（代謝内科）、血液内科、感染症内科、アレルギー科、リウマチ科、神経内科、心療内科とする。

本研究における「内科」の区分として、専門医機構の内科領域に心療内科を追加する。医師届出票の診療科区分には、「内科」という広範なものもあるが、内科の場合は、内科ひとくくりにてきるため、この「広範な内科」を含めて分析する。

降については、従事する診療科を複数回答し、複数ある場合は、「主たる診療科」を回答するように設計されている。実証分析においては、従事する診療科については、医師がレポートした「主たる診療科」を用いる<sup>15</sup>。

医籍登録してからの初めての医師届出票に記載した診療科（あるいは、2004年からの新しい臨床研修制度であるスーパーローテート移行以後については、臨床研修医を修了してからの初めての診療科）を、その医師の「初めての診療科（初職診療科）」とする<sup>16</sup>。

## 5 記述統計量

### 5.1 現職の特徴について

まず、30歳から49歳の医師の各種属性の記述統計量を表3で示す。2010年と2016年において、男性医師、女性医師の双方について、年齢、医籍登録してからの年数（医師としての経験年数）、従事している診療科、開業医、専門医の取得状況についての記述統計量を示す。

2010年において、男性医師の平均年齢は40.2歳であるのに対して、女性医師の平均年齢は38.2歳となっており、女性医師の方が男性医師よりも年齢が2歳ほど若い。これは、女性医師の割合が若い世代において増えてきていることを表している。

専門医の取得については、2010年において、男性医師の59.9%が持っているのに対して、女性医師は51.1%が持っている<sup>17</sup>。全体として、おおよそ半数の医師は何らかの専門医を取得しており、男性医師の方が、女性医師よりも専門医を取得している。2016年においては、男性医師の69.2%、女性医師の64.1%が専門医を取得している。2010年から2016年にかけて、専門医を取得している医師の割合は増えており、また、男性医師と女性医師の専門医の取得状況の差は縮まっている。

次に、基本領域、及びサブスペシャリティ領域の専門医の取得状況についてみる。基本領域の専門医を取得している医師は、2010年において男性医師は47.8%、女性医師は41.5%、2016年において男性医師は57.0%、女性医師は53.6%と半数を占め、男性医師、女性医師双方ともに、基本領域の専門医の取得は2010年から2016年にかけて増加している。また、基本領域の専門医取得状況の男女差については、2010年の6.2%から2016年の3.4%に縮まっている。一方、サブスペシャリティ領域の専門医については、2010年において男性医師は28.0%、女性医師は17.7%、2016年において男性医師は32.1%、女性医師は23.3%と増加している。男女ともに、サブスペシャ

---

<sup>15</sup> 主たる診療科を、複数選択した診療科に置き換えても分析したが、ほぼ同様の結果が得られた。

<sup>16</sup> 「初めての診療科」と定義するのは、初めての医師届出票を提出したのが、医籍登録してから5年未満の医師に限定する。なお、初めての診療科において、複数の診療科を回答した医師は2.1%にとどまるものの、2016年において30歳から49歳の医師においては、診療科を複数回答した医師は9.3%（勤務医で6.73%、開業医で34.37%）となっている。

<sup>17</sup> 専門医を取得したならば1、取得していなければ0をとる変数を作成する。

リティ領域の専門医の割合は2～3割にとどまっている。サブスペシャリティ領域の専門医取得状況の男女差も、2010年の10.3%から2016年の8.7%に縮まっているものの、基本領域の専門医の男女差と比べて大きいといえる。

開業医の割合についてみる。2010年から2016年にかけて、開業している医師の割合は、男女ともに減っていて、男性医師の場合、13.6%から10.6%に減っていて、女性医師の場合、7.6%から5.4%に減っている。男性医師の方が、開業している割合が女性医師より2倍多い。従事している診療科数についても、2016年において男性医師は平均1.14であるのに対して、女性医師は平均1.10となっている。開業している医師の方が、従事している診療科数が多い傾向にあり、このことが、男性医師がより多くの診療科数をレポートしていることにつながっている。

従事している診療科については、2016年において、男性医師の37.6%が内科、12.8%が外科と、内科と外科が圧倒的に多く、次に続くのは9.6%の整形外科、5.4%の精神科、5.1%の小児科、3.7%の眼科である。それに対して、女性医師の33.9%が内科にいて、男性医師とほぼ同じ割合で最高であるものの、女性医師の9.3%が産婦人科、9.3%が小児科、7.4%が麻酔科、7.0%が眼科、6.9%が皮膚科となっている。男女間で診療科において顕著な違いがある。

表4で、それぞれの診療科において女性が占める割合をみる。女性割合の高い診療科から順にみると、まず産婦人科における女性割合は、2010年の42.9%から2016年の54.6%と増えて半数を超えている。次に皮膚科における女性割合は、2010年の49.8%から2016年の57.7%に増えて半数を超えている。さらに、女性の割合の多い順にみていくと、麻酔科では2010年の37.9%から2016年の46.1%、眼科では2010年の39.4%から2016年の42.0%、小児科では2010年の38.5%から2016年の41.1%となっており、これらの診療科においては、2010年から2016年にかけて、4割を超えている。

一方、女性割合の低い診療科としては、整形外科における女性割合は2010年の5.8%から2016年の7.6%、泌尿器科は2010年の5.9%から2016年の8.6%、脳神経外科は2010年の6.7%から2016年の7.6%、外科は2010年の9.2%から2016年の13.8%、内科は2010年の21.8%から2016年の25.6%となっている。これらの診療科においても、2010年から比べると2016年には、女性割合は1～4%増加している。ただし、女性割合の高い診療科（産婦人科や皮膚科や麻酔科）の7～12%の増加と比べると増加幅は少ない。

## 5.2 初職の特徴について

次に、2010年と2016年において、臨床研修医を修了した後の医師の初職の特徴についてみる。表5をみると、医師の年齢は、2016年のとき男性の場合は29.8歳、女性の場合は29.2歳と、男性医師と女性医師の間では、年齢差はほとんどない。医師は、初職において開業している割合はほぼ0%である。



初めての診療科については、男女差がみられる。初めての診療科については、2016年において、男性医師の39.8%が内科、12.3%が外科、8.8%が整形外科、5.5%が小児科と、内科と外科が圧倒的に多い。それに対して、女性医師の35.3%が内科で働いており、その割合は男性医師とほぼ同じで最高であるものの、それ以降の女性の8.8%が産婦人科、8.8%が麻酔科、7.9%が小児科、7.2%が皮膚科となっている。

初職の診療科と、その後30代、40代になったときの診療科とが、同じか、あるいは異なるのかについて、表6でみる。初職の診療科として外科を選んだ医師を対象として、その医師が30代、40代になったときに同じ外科で働いている割合をみる。初職が外科であった男性医師は、2016年においては、30代においても外科であるのは86.3%、40代においては71.0%である。それに対して、初職が外科であった女性医師は、2016年においては、30代でも外科であるのは78.3%、40代で外科であるのは57.8%である。初職が外科であった男性医師と比べると、初職が外科であった女性医師は、30代においても外科である割合は7.9%低く、さらに40代になると13.2%低くなっている。それらの女性医師は、外科から別の診療科（内科が最も多い）に移行している。このように初職の診療科と、30代、40代における診療科を比べてみると、男性と比べて、女性の方が診療科を変えている割合が高いのは、ほかには脳神経外科、整形外科、泌尿器科がある。具体的には、脳神経外科では、男性医師が脳神経外科にとどまっている割合は40代において82.1%であるのに対して、女性医師は64.9%と大きな違いがある。整形外科では、男性医師が整形外科にとどまっている割合は40代において93.1%であるのに対して、女性医師は77.0%であり、泌尿器科では、男性医師が泌尿器科にとどまっている割合は40代において86.6%であるのに対して、女性医師は76.3%である。

一方、皮膚科と麻酔科においては、それとは逆の傾向がある。初職として皮膚科であった男性医師は、2016年において、40代においても皮膚科であるのは79.4%、女性医師の場合は90.8%である。また、初職として麻酔科であった男性医師は、2016年に40代においては50.1%が麻酔科、女性医師の場合は40代においても麻酔科であるのは67.9%となっている。初職が麻酔科であった男性医師と比べて、女性医師の方が麻酔科にとどまっている割合が17.8%高い。初職が麻酔科であった男性医師は、40代において内科に移行している割合が13.6%と最も高く、整形外科9.1%、外科7.1%となっている。初職が麻酔科であった女性医師は、40代において内科に移行している割合が12.0%と高く、それ以外の診療科に移行しているのは1~4%である。このように、男性医師、女性医師とで、それぞれの診療科の推移をみると、スキル形成過程に違いがあることが示唆される。

医師が40代になったときの診療科と、その医師の初職の診療科とが異なっている場合であっても、診療科間にスキルの補完性が高いのであれば、診療科の変更があっても医師のスキルは蓄積され続けていると考えることができる。しかし、医師が、初職と比べるとスキルの移転が難しい別の診療科に移行している場合には、それまでのスキルの蓄積が途切れる状況も考えられるので、

医師としての人的資本蓄積の観点からは課題である可能性がある。

## 6 専門医の取得に関する分析

基本領域の専門医とは、臨床研修医を修了し診療科を決めてから3~4年で取得する専門医であるが、それに対して、サブスペシャリティ領域の専門医の多くは、基本領域の専門医取得を受験資格の要件としたうえで、さらに、一定の手術件数などを要件とするなど、該当診療科において細分化された経験をより積んだ後に取得するものと考えることができる。つまり、基本領域の専門医の取得状況を調べることは、医師としての初期の段階のキャリアの状況を把握するのに適しており、サブスペシャリティ領域の専門医の取得状況を調べることは、中堅の医師のキャリアの状況を把握するのに適しているといえる。

初職の診療科ごと、すなわち、外科、内科、産婦人科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科、小児科、麻酔科、放射線科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科の各診療科について、別々に分析する。特に、男性医師と女性医師とで、専門医取得に違いがあるのかに注目する。

専門医取得の決定要因を分析するに当たっては、被説明変数として、専門医取得の有無（専門医の取得経験があれば1、なければ0をとる変数）とした線形確率モデルを推定する。3つの線形確率モデルを推定するが、それぞれのモデルの被説明変数は以下の3つである。

モデル①：初職の診療科の基本領域の専門医の有無

モデル②：初職の診療科以外の基本領域の専門医の有無

モデル③：サブスペシャリティ領域の専門医の有無

説明変数として、性別、年齢、医師が従事している市区町村の人口規模、生まれた世代、都道府県、及び、調査年を用いる。これらの分析において用いる標準誤差は、医師ごとにクラスタリングした頑健標準誤差である。結果は表7で示す。

まず、女性の割合の低い診療科である外科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科の推定結果をみしてみる。

初めての診療科が外科の場合の推定結果をみってみる。外科の基本領域である外科専門医を被説明変数とした推定結果をみみると、女性医師の方が男性医師に比べて外科専門医を取得している確率が13.7%低い。30代前半と比べて、30代後半、及び、40代前半と年齢とともに、外科専門医を取得する確率は高くなる。人口が多い市区町村で従事する医師の方が、専門医を取得している確率は高い。初職の診療科が外科の場合、外科専門医以外の基本領域の専門医を取得する確率は、男性医師よりも女性医師の方が4.5%高い。外科の取得するサブスペシャリティ領域の専門医については、女性医師の方が男性医師と比べて、サブスペシャリティ領域の専門医を取得している確率が8.0%低い。

初めての診療科が脳神経外科の場合においても、外科と同様の傾向がみられる。すなわち、基

本領域である脳神経外科専門医を取得するのは、女性医師の方が男性医師よりも14.3%低い。脳神経外科専門医以外の基本領域の専門医を取得するのは、女性医師は男性医師よりも3.2%高い。また、サブスペシャリティ領域の専門医を取得する確率については、女性医師の方が男性医師よりも3.5%低い。これは外科や脳神経外科を初職とする女性医師が、基本領域を取得する初期の段階のキャリアにおいて、他の診療科に移っている可能性を示唆している。さらには、男性医師と比べて女性医師は中堅キャリアの医師が取得するサブスペシャリティ領域の専門医を取得する傾向が低く、女性医師と男性医師とでは専門医としての経験やスキルに差がある可能性があることを表している。

初めての診療科が内科の場合の推定結果をみても、総合内科専門医（基本領域）を取得している確率は、女性医師の方が男性医師に比べて1.9%低い。総合内科専門医以外の基本領域の専門医を取得するのは、若干であるが、女性医師の方が男性よりも0.6%高い。初職の診療科が内科の場合は、基本領域の専門医の取得については、大きな男女差がないが、サブスペシャリティ領域の専門医を取得している確率は、女性医師の方が男性医師に比べて8.2%低く、男女差は大きい。

初めての診療科が整形外科、泌尿器科の場合においては、基本領域の専門医を取得する確率は、女性医師の方が男性医師よりもそれぞれ10.1%、6.0%低く、それぞれの診療科以外の基本領域の専門医を取得する確率は、女性医師の方が男性医師よりもそれぞれ6.9%、3.6%高い。一方、サブスペシャリティ領域の専門医の取得については有意な男女差はない。

次に、女性の割合が4割を超えている診療科である産婦人科、皮膚科、麻酔科、眼科、小児科の推定結果をみても。

初めての診療科が産婦人科であった場合、産婦人科専門医（基本領域）を取得している確率は女性医師の方が男性と比べて2.2%高い。一方、初めての診療科が産婦人科の場合、産婦人科専門医以外の基本領域の専門医を取得するのは、女性医師の方が1.0%低く、男性割合の高い診療科である外科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、内科と異なる結果である。しかし、基本領域の専門医を取得後のサブスペシャリティ領域の専門医を取得している確率は、女性医師の方が男性医師と比べて6.6%低い。女性医師は、基本領域の産婦人科専門医は取得するが、さらに産婦人科における専門的なスキル獲得と関係するサブスペシャリティ領域の専門医の取得には至る割合が低い。これは、男性割合の高い診療科と同様の結果である。

初めての診療科が麻酔科においても、女性医師が男性医師と比べて、（基本領域の）麻酔科専門医を取得する確率が8.0%高いが、麻酔科専門医以外の基本領域の専門医を取得するのは、12.3%低く、男性医師の方が他の診療科に移っていることを示唆している。しかし、その後のサブスペシ

ャリティ領域の専門医については、女性医師が男性医師と比べて取得確率が5.0%低い<sup>18</sup>。

初めての診療科が小児科についても、女性医師が男性医師と比べて、基本領域の小児科専門医を取得する確率が3.7%高いが、小児科専門医の基本領域の専門医を取得するのは1.4%低い。しかし、その後のサブスペシャリティ領域の専門医については、男性医師よりも女性医師の方が取得確率は4.3%低い。

初めての診療科が皮膚科の場合、基本領域の皮膚科専門医の取得については有意な男女差はないが、皮膚科専門医以外の基本領域の専門医を取得する確率は、女性医師よりも男性医師の方が、8.6%高い。サブスペシャリティ領域の専門医を取得している確率は、女性医師の方が男性医師と比べて7.0%低い。

初めての診療科が眼科の場合においては、基本領域の眼科専門医の取得については有意な男女差はないものの、眼科専門医以外の基本領域の専門医を男性医師の方が女性医師よりも1.3%高い確率で取得している。また、サブスペシャリティ領域の専門医の取得については、男性医師よりも女性医師が0.5%低い。

女性医師比率の高い5診療科のうち、初めての診療科が産婦人科、麻酔科、小児科の場合、その診療科における基本領域の専門医を男性医師よりも女性医師の方が取得する確率が高い。また5診療科いずれでも、女性医師よりも男性医師の方が別の診療科に移行し、別の診療科において基本領域の専門医を取得する傾向がある。

最後に、その他の診療科の推定結果をみってみる。

初めての診療科が耳鼻咽喉科の場合においては、基本領域の耳鼻咽喉科専門医を取得する確率については男性医師よりも女性医師の方が2.1%低く、耳鼻咽喉科専門医以外の基本領域の専門医を取得する確率も0.8%低く、サブスペシャリティ領域の専門医の取得についても2.2%低い。

初めての診療科が放射線科の場合においては、基本領域の放射線科専門医を取得する確率、放射線専門医以外の基本領域の専門医を取得する確率、サブスペシャリティ領域の専門医を取得する確率のいずれについても有意な男女差はない。

眼科、耳鼻咽喉科、放射線科については、基本領域の専門医やサブスペシャリティ領域の専門医の取得について大きな男女差はない。しかし、これらの診療科においては、そもそもサブスペシャリティ領域の専門医を取得している割合は、男性医師、女性医師ともに低い。そのため、これらの診療科については、サブスペシャリティ領域の専門医の取得状況から、中堅医師のキャリア形成の状況を把握できない可能性もあることに注意しなくてはならない。

---

<sup>18</sup> 初めての診療科が麻酔科の場合、サブスペシャリティ領域の専門医の取得についても、外科領域や内科領域のサブスペシャリティの専門医の取得について、男性医師の方が女性医師よりも高い確率で取得している。

女性医師は、サブスペシャリティ領域の専門医を取得する傾向が男性医師に比べて低いという結果が外科、内科、産婦人科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、麻酔科、脳神経外科、眼科と多くの診療科で得られた<sup>19</sup>。サブスペシャリティ領域の専門医の取得は、30代後半から40代前半という女性の出産や育児と重なる時期に行われる。女性医師の場合、医師としての働き方が出産や育児と両立するのが難しく、女性医師のサブスペシャリティ領域の専門医取得が増えていない要因になっているのかもしれない。しかしながら、医師届出票には医師の家族構成（婚姻状況や子どもの有無等について）の情報がなく、家族構成の変化による、医師の働き方の変化を検証することは難しい<sup>20</sup>。

女性医師の割合が高い診療科である産婦人科、麻酔科、小児科においては、それぞれの基本領域における専門医の取得においてはむしろ女性医師の方が専門医を取得する確率が高い。しかし、これらの診療科においても、男性医師の方が女性医師よりもサブスペシャリティ領域の専門医を取得しており、それは、結果的にその診療科における経験豊富な中堅キャリアの医師の割合が低くなることを表しているかもしれない。一方、外科、内科、脳神経外科は女性割合が低い水準にとどまっている診療科であるが、それらの診療科においては、基本領域の専門医、サブスペシャリティ領域の専門医の両方において女性医師の方が男性医師よりも取得しておらず、女性医師の育成が進んでいない可能性がある。

このような状況から、今後の男性医師、女性医師のキャリア形成の違いの是正のためには、すべての診療科を一体として考えて取り組むものではないといえる。女性医師の割合の多い診療科における課題は、サブスペシャリティ領域の専門医の取得において、女性医師が男性医師とほぼ同様の水準まで取得できることを推進することである。一方、女性医師の割合の少ない診療科における課題は、そうした診療科においては女性医師の早期キャリア段階でのスキル形成が男性医師に比べて不十分である可能性がある。あるいは、そうした診療科においては女性医師は家庭におけるケア責任とキャリア形成が両立できなく、ワーク・ライフ・バランスの取りやすい診療科に異動してキャリアを再形成している可能性がある。ゆえに、そうした診療科において、女性医師は他の診療科に移行する傾向があるのかもしれない。こうした状況からみて、女性医師にとっては、働きやすい職場の環境整備や女性医師としてのキャリア育成への支援が一層求められているといえる。

---

<sup>19</sup> そして、サブスペシャリティ領域の専門医の取得の男女差がみられなかったのは、泌尿器科、整形外科、放射線科だけであった。

<sup>20</sup> Wasserman (2019)は、米国における女性医師の場合、出産や育児が長時間働くことと関連していることを指摘している。

本論文においては、初職としての診療科を選んでからの、医師の専門医取得のキャリアを中心に試みてきたが、もともと、女性医師と男性医師とでは、臨床研修を修了したのちの最初の診療科選択も大きく異なる。また、男性医師、女性医師のキャリア形成は診療科により異なることも明らかになった。そのため、今後の研究の方向としては、男女医師の診療科選択の違いを含めた医師のキャリア形成分析が必要である。

## 7 結論

大学医学部の入学試験において、男子学生より試験の点数がより高かった女子学生が不合格となっていたことがあった。医学部入試における男女間での点数操作による差別である。従来の大学受験の形式においては、受験する学生の将来の医師としての技量、能力、やる気を正確に認識し予見することは難しく、大学側としては、それまで観察してきた男性医師と女性医師との平均的特徴の差の情報に依存して、それぞれの学生の将来の医師としての能力を判断していたということができる。しかしながら、個々の学生の将来の医師としての能力を正確に予見することが難しいために、観察できる情報である性別を合否の判断基準とすることは、統計的差別といえる。

本稿において、医籍登録後の医師のキャリアについて分析した結果、女性医師と男性医師とでは、それぞれ異なる診療科を選び、専門医取得状況も異なる傾向があった。

キャリア形成過程の一つの指標となる専門医の取得の状況をみると、基本領域の専門医取得についてみると、男性医師と女性医師とでは差がない診療科があるものの、多くの診療科においてはサブスペシャリティ領域の専門医に関して、男性医師の方が女性医師よりも取得する傾向があった。

サブスペシャリティ領域の専門医の取得が、その診療科において高度な医療技術やスキルを取得したことを表す指標として適切であるならば、本稿からは以下のことがいえる。

各診療科において、より高度な医療技術やスキルを取得する点において、男性医師に比べて女性医師の方が低い傾向が続くならば、女性医師の割合が増えていくと予想される状況の下、医療の現場での質の高いニーズに対応できる医師の数が相対的に不足することにつながる可能性が考えられる。

たとえば、産婦人科医における女性割合をみると、2010年の42.93%から、2016年には54.65%にまで増えている。しかしながら、多くの女性医師が産婦人科専門医は取得するものの、その後において、より細分化された技術を身につけるべきサブスペシャリティ領域の専門医を取得することが少ないため、そのような細分化された技術の専門医が将来的には不足することになる可能性が懸念される。

従って、今後の医療現場における男女間の分担について考えるときには、女性医師と男性医師のキャリア形成には違いがあるということを認識した上で、医療の質と量とを将来に渡ってどの

ように維持していくのかを現実的な観点から考えていかなければならない。そのような状況認識に基づいて、これからの医療に関わる制度の改革を検討することが必要になると思われる。

女性医師の方が患者のケアがより適切であるという研究結果などにも鑑みて、女性医師の能力を最大限発揮できるように配置することは重要である。同時に、女性医師の方が高度な医療技術やスキルを取得できる環境を整備し、医療の現場での質の高い人材を育成していくことが重要である。

## 参考文献

亀甲綾乃 (2002) 「広告規制緩和 専門医資格が新たに表示可能に ただし学会は申請に模様眺め」『日経メディカル』 414: 41

酒井紀 (2004) 「わが国の専門医認定制度の現状」『医学教育』 35(3): 171-175

日本専門医機構 (2017) 『専門医制度新整備指針 (第二版)』

日本専門医制評価・認定機構 (2010) 『日本専門医制度概報 (平成 22 年度版)』

堀江孝至 (2005) 「大学附属病院での後期専門医研修」『医学教育』 36(5): 279-282

増谷彩・満武里奈 (2015) 「新専門医制度 15 の疑問」『日経メディカル』 44(8): 36-49

矢崎義雄 (2004) 「臨床研修必修化に到る経緯と今後期待される専門医について」『医学教育』 35(3): 161-165

山崎洋次・畝村泰樹 (2004) 「卒後臨床研修必修化と外科専門医制度のかかわり」『医学教育』 35(3): 185-189

Melanie Wasserman, Hours Constraints, Occupational Choice, and Gender: Evidence from Medical Residents, 2019.



表1： 分析対象とする専門医資格の一覧と分類

基本領域の専門医（16 資格）	サブスペシャリティ領域の専門医（38 資格）	
総合内科専門医 小児科専門医 皮膚科専門医 外科専門医 整形外科専門医 産婦人科専門医 眼科専門医 耳鼻咽喉科専門医 泌尿器科専門医 脳神経外科専門医 放射線科専門医 麻酔科専門医 病理専門医 救急科専門医 形成外科専門医 リハビリテーション科専門医	呼吸器専門医 循環器専門医 消化器病専門医 腎臓専門医 肝臓専門医 神経内科専門医 糖尿病専門医 内分泌代謝科専門医 血液専門医 アレルギー専門医 リウマチ専門医 感染症専門医 心療内科専門医 呼吸器外科専門医 心臓血管外科専門医 乳腺専門医 気管食道科専門医 消化器外科専門医 小児外科専門医	超音波専門医 細胞診専門医 透析専門医 老年病専門医 消化器内視鏡専門医 臨床遺伝専門医 漢方専門医 レーザー専門医 気管支鏡専門医 核医学専門医 大腸肛門病専門医 婦人科腫瘍専門医 ペインクリニック専門医 熱傷専門医 脳血管内治療専門医 がん薬物療法専門医 周産期(新生児)専門医 生殖医療専門医 小児神経専門医

表 2 : 41 診療科と 16 基本領域の区分

医師届出票の診療科(41 区分)	基本領域で分けた診療科 (16 区分+その他)	広告可能な基本領域の専門医資格 (16 資格)
内科 呼吸器内科 循環器内科 消化器内科 (胃腸内科) 腎臓内科 神経内科 糖尿病内科 (代謝内科) 血液内科 アレルギー科 リウマチ科 感染症内科 心療内科	内科	総合内科専門医
皮膚科	皮膚科	皮膚科専門医
小児科	小児科	小児科専門医
外科 呼吸器外科 心臓血管外科 乳腺外科 気管食道外科 消化器外科 (胃腸外科) 肛門外科 小児外科	外科	外科専門医
泌尿器科	泌尿器科	泌尿器科専門医
脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科専門医
整形外科	整形外科	整形外科専門医
形成外科 美容外科	形成外科	形成外科専門医
眼科	眼科	眼科専門医
耳鼻いんこう科	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科専門医
産婦人科 産科 婦人科	産婦人科	産婦人科専門医
リハビリテーション科	リハビリテーション科	リハビリテーション科専門医
放射線科	放射線科	放射線科専門医

麻酔科	麻酔科	麻酔科専門医
病理診断科	病理科	病理専門医
救急科	救急科	救急科専門医
精神科 臨床検査科 臨床研修医 全科	その他の診療科（分析対象外）	（2010年時点で、広告可能な 専門医資格が存在せず、医師 届出票でも資格保有が調査さ れていない）

表3：現職の特徴

	男性				女性			
	2010		2016		2010		2016	
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
年齢	40.21	5.672	40.09	5.774	38.21	5.620	38.89	5.635
経験年数	13.71	5.916	13.54	6.054	12.23	5.846	12.86	5.884
専門医	0.599	0.490	0.692	0.462	0.511	0.500	0.641	0.480
基本領域	0.478	0.500	0.570	0.495	0.415	0.493	0.536	0.499
サブスペシャルティ領域	0.280	0.449	0.321	0.467	0.177	0.382	0.233	0.423
開業医	0.136	0.343	0.106	0.308	0.076	0.264	0.054	0.227
診療科の数	1.200	0.570	1.136	0.466	1.133	0.430	1.095	0.365
外科	0.134	0.341	0.128	0.334	0.046	0.209	0.053	0.224
内科	0.369	0.483	0.376	0.484	0.346	0.476	0.339	0.473
産婦人科	0.031	0.174	0.030	0.169	0.079	0.269	0.093	0.291
泌尿器科	0.034	0.181	0.033	0.179	0.007	0.084	0.008	0.090
精神科	0.054	0.226	0.054	0.227	0.062	0.242	0.059	0.236
小児科	0.046	0.209	0.051	0.219	0.096	0.295	0.093	0.290
眼科	0.042	0.200	0.037	0.188	0.092	0.288	0.070	0.255
皮膚科	0.022	0.146	0.019	0.138	0.072	0.259	0.069	0.253
耳鼻咽喉科	0.034	0.181	0.031	0.173	0.032	0.177	0.030	0.169
放射線科	0.027	0.161	0.028	0.166	0.030	0.170	0.032	0.177
麻酔科	0.031	0.172	0.033	0.178	0.063	0.243	0.074	0.261
その他の診療科	0.041	0.199	0.048	0.213	0.042	0.202	0.049	0.215
全科	0.001	0.029	0.001	0.032	0.001	0.033	0.001	0.024
脳神経外科	0.034	0.181	0.034	0.182	0.008	0.090	0.009	0.093
整形外科	0.098	0.298	0.096	0.294	0.020	0.142	0.020	0.141
形成外科・美容外科	0.002	0.050	0.002	0.042	0.002	0.044	0.002	0.046
log(市区町村人口)	12.55	1.375	12.64	1.378	12.70	1.356	12.77	1.353
1960年代生まれ	0.502	0.500	0.175	0.380	0.354	0.478	0.120	0.325
1970年代生まれ	0.461	0.498	0.513	0.500	0.581	0.493	0.496	0.500
1980年代生まれ	0.037	0.188	0.312	0.463	0.065	0.247	0.384	0.486
N	98318		92518		29206		35399	

表 4 : 各診療科における女性割合

	2010		2016	
	Mean	Freq	Mean	Freq
外科	9.2%	14493	13.8%	13648
内科	21.8%	46320	25.6%	46712
産婦人科	42.9%	5351	54.6%	6024
泌尿器科	5.9%	3524	8.6%	3331
精神科	25.5%	7139	29.5%	7108
小児科	38.5%	7308	41.1%	7945
眼科	39.4%	6773	42.0%	5861
皮膚科	49.8%	4233	57.7%	4221
耳鼻咽喉科	22.2%	4262	26.7%	3907
放射線科	25.0%	3472	30.5%	3766
麻酔科	37.9%	4845	46.1%	5638
その他の診療科	23.4%	5296	28.2%	6113
全科	27.2%	114	17.8%	118
脳神経外科	6.7%	3582	8.9%	3457
整形外科	5.8%	10251	7.6%	9560
形成外科・美容外科	18.9%	301	32.2%	236
総計	22.9%	127264	27.7%	127645

表 5 : 初職の特徴

	男性				女性			
	2010		2016		2010		2016	
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
年齢	29.82	2.774	29.79	2.756	29.16	2.405	29.21	2.394
経験年数	2.984	0.851	2.983	0.843	2.954	0.845	2.978	0.832
専門医	0.000	0.000	0.000	0.019	0.000	0.000	0.000	0.022
基本領域	0.000	0.000	0.000	0.019	0.000	0.000	0.000	0.022
サブスペシャルティ領域	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
開業医	0.003	0.053	0.002	0.049	0.001	0.030	0.001	0.030
診療科の数	1.039	0.244	1.031	0.224	1.027	0.200	1.021	0.206
外科	0.134	0.340	0.123	0.328	0.071	0.256	0.069	0.254
内科	0.378	0.485	0.398	0.490	0.327	0.469	0.353	0.478
産婦人科	0.032	0.176	0.027	0.163	0.101	0.302	0.089	0.285
泌尿器科	0.028	0.165	0.037	0.188	0.011	0.102	0.013	0.113
精神科	0.052	0.222	0.048	0.214	0.049	0.217	0.046	0.209
小児科	0.063	0.242	0.055	0.229	0.099	0.299	0.079	0.270
眼科	0.026	0.160	0.027	0.163	0.046	0.209	0.047	0.211
皮膚科	0.015	0.123	0.016	0.125	0.063	0.244	0.072	0.259
耳鼻いんこう科	0.028	0.165	0.027	0.161	0.025	0.155	0.031	0.173
放射線科	0.032	0.175	0.034	0.181	0.038	0.191	0.032	0.175
麻酔科	0.047	0.213	0.037	0.188	0.101	0.301	0.089	0.284
その他の診療科	0.043	0.203	0.045	0.207	0.036	0.185	0.041	0.199
全科	0.002	0.044	0.002	0.048	0.002	0.041	0.001	0.030
脳神経外科	0.032	0.177	0.035	0.184	0.009	0.092	0.011	0.104
整形外科	0.087	0.281	0.088	0.283	0.023	0.149	0.026	0.160
形成外科・美容外科	0.001	0.028	0.001	0.025	0.001	0.027	0.001	0.030
log(市区町村人口)	12.68	1.354	12.67	1.369	12.82	1.353	12.77	1.360
1960年代生まれ	0.008	0.089	0.000	0.000	0.005	0.069	0.000	0.000
1970年代生まれ	0.260	0.439	0.040	0.196	0.158	0.364	0.024	0.154
1980年代生まれ	0.732	0.443	0.934	0.249	0.838	0.369	0.943	0.231
1990年代生まれ	0.000	0.000	0.026	0.160	0.000	0.000	0.032	0.177
N	13985		14279		6672		6455	

表 6 : 初職と現職の関係

	男性 2010				男性 2016				女性 2010				女性 2016			
	30-39		40-49		30-39		40-49		30-39		40-49		30-39		40-49	
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
<b>初めての診療科が外科</b>																
専門医	<b>0.586</b>	0.493	<b>0.755</b>	0.430	<b>0.646</b>	0.478	<b>0.838</b>	0.368	<b>0.474</b>	0.500	<b>0.614</b>	0.488	<b>0.625</b>	0.484	<b>0.748</b>	0.434
基本領域	<b>0.564</b>	0.496	<b>0.719</b>	0.450	<b>0.622</b>	0.485	<b>0.786</b>	0.410	<b>0.447</b>	0.497	<b>0.581</b>	0.494	<b>0.595</b>	0.491	<b>0.688</b>	0.463
サブスペシヤルティ領域	<b>0.216</b>	0.411	<b>0.448</b>	0.497	<b>0.216</b>	0.412	<b>0.570</b>	0.495	<b>0.142</b>	0.349	<b>0.303</b>	0.460	<b>0.191</b>	0.393	<b>0.425</b>	0.495
外科	<b>0.795</b>	0.404	<b>0.730</b>	0.444	<b>0.863</b>	0.344	<b>0.710</b>	0.454	<b>0.665</b>	0.472	<b>0.531</b>	0.500	<b>0.783</b>	0.412	<b>0.578</b>	0.494
N	<b>5841</b>		<b>5563</b>		<b>5369</b>		<b>7207</b>		<b>1114</b>		<b>358</b>		<b>1303</b>		<b>855</b>	
<b>初めての診療科が内科</b>																
専門医	<b>0.408</b>	0.492	<b>0.593</b>	0.491	<b>0.438</b>	0.496	<b>0.751</b>	0.432	<b>0.384</b>	0.486	<b>0.504</b>	0.500	<b>0.442</b>	0.497	<b>0.665</b>	0.472
基本領域	<b>0.142</b>	0.349	<b>0.266</b>	0.442	<b>0.168</b>	0.374	<b>0.438</b>	0.496	<b>0.141</b>	0.348	<b>0.254</b>	0.435	<b>0.169</b>	0.375	<b>0.392</b>	0.488
サブスペシヤルティ領域	<b>0.349</b>	0.477	<b>0.532</b>	0.499	<b>0.380</b>	0.485	<b>0.653</b>	0.476	<b>0.308</b>	0.462	<b>0.417</b>	0.493	<b>0.369</b>	0.483	<b>0.525</b>	0.499
内科	<b>0.850</b>	0.357	<b>0.846</b>	0.360	<b>0.905</b>	0.293	<b>0.855</b>	0.352	<b>0.816</b>	0.387	<b>0.820</b>	0.384	<b>0.874</b>	0.332	<b>0.812</b>	0.391
N	<b>14526</b>		<b>13615</b>		<b>15006</b>		<b>17084</b>		<b>5495</b>		<b>3077</b>		<b>6057</b>		<b>5510</b>	
<b>初めての診療科が産婦人科</b>																
専門医	<b>0.647</b>	0.478	<b>0.807</b>	0.395	<b>0.717</b>	0.451	<b>0.916</b>	0.278	<b>0.663</b>	0.473	<b>0.803</b>	0.398	<b>0.788</b>	0.409	<b>0.880</b>	0.325
基本領域	<b>0.635</b>	0.482	<b>0.793</b>	0.405	<b>0.713</b>	0.452	<b>0.903</b>	0.296	<b>0.659</b>	0.474	<b>0.793</b>	0.405	<b>0.786</b>	0.410	<b>0.869</b>	0.338
サブスペシヤルティ領域	<b>0.108</b>	0.311	<b>0.208</b>	0.406	<b>0.096</b>	0.295	<b>0.338</b>	0.473	<b>0.043</b>	0.203	<b>0.117</b>	0.322	<b>0.076</b>	0.265	<b>0.219</b>	0.413
産婦人科	<b>0.916</b>	0.277	<b>0.872</b>	0.335	<b>0.954</b>	0.209	<b>0.881</b>	0.324	<b>0.921</b>	0.270	<b>0.898</b>	0.303	<b>0.969</b>	0.173	<b>0.896</b>	0.306
N	<b>1099</b>		<b>1247</b>		<b>1071</b>		<b>1506</b>		<b>1278</b>		<b>521</b>		<b>1723</b>		<b>1210</b>	
<b>初めての診療科が泌尿器科</b>																
専門医	<b>0.672</b>	0.470	<b>0.842</b>	0.365	<b>0.627</b>	0.484	<b>0.926</b>	0.262	<b>0.519</b>	0.502	<b>0.800</b>	0.405	<b>0.667</b>	0.473	<b>0.897</b>	0.306
基本領域	<b>0.667</b>	0.471	<b>0.835</b>	0.371	<b>0.626</b>	0.484	<b>0.918</b>	0.274	<b>0.519</b>	0.502	<b>0.800</b>	0.405	<b>0.661</b>	0.475	<b>0.887</b>	0.319
サブスペシヤルティ領域	<b>0.058</b>	0.233	<b>0.137</b>	0.344	<b>0.031</b>	0.174	<b>0.138</b>	0.345	<b>0.031</b>	0.173	<b>0.125</b>	0.335	<b>0.029</b>	0.168	<b>0.103</b>	0.306
泌尿器科	<b>0.933</b>	0.249	<b>0.872</b>	0.334	<b>0.935</b>	0.247	<b>0.866</b>	0.341	<b>0.885</b>	0.320	<b>0.675</b>	0.474	<b>0.902</b>	0.298	<b>0.763</b>	0.428
N	<b>1336</b>		<b>1236</b>		<b>1223</b>		<b>1640</b>		<b>131</b>		<b>40</b>		<b>174</b>		<b>97</b>	

表6：初職と現職の関係（続）

	男性 2010				男性 2016				女性 2010				女性 2016			
	30-39		40-49		30-39		40-49		30-39		40-49		30-39		40-49	
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
<b>初めての診療科が小児科</b>																
専門医	<b>0.577</b>	0.494	<b>0.746</b>	0.436	<b>0.649</b>	0.478	<b>0.865</b>	0.342	<b>0.613</b>	0.487	<b>0.727</b>	0.446	<b>0.721</b>	0.449	<b>0.856</b>	0.351
基本領域	<b>0.560</b>	0.497	<b>0.728</b>	0.445	<b>0.644</b>	0.479	<b>0.851</b>	0.357	<b>0.603</b>	0.489	<b>0.714</b>	0.452	<b>0.717</b>	0.451	<b>0.847</b>	0.360
サブスペシヤルティ領域	<b>0.107</b>	0.309	<b>0.243</b>	0.429	<b>0.118</b>	0.322	<b>0.355</b>	0.479	<b>0.088</b>	0.284	<b>0.204</b>	0.404	<b>0.116</b>	0.320	<b>0.279</b>	0.449
小児科	<b>0.853</b>	0.354	<b>0.838</b>	0.368	<b>0.895</b>	0.306	<b>0.825</b>	0.380	<b>0.863</b>	0.344	<b>0.866</b>	0.340	<b>0.897</b>	0.304	<b>0.847</b>	0.360
N	<b>2187</b>		<b>1455</b>		<b>2303</b>		<b>2302</b>		<b>1518</b>		<b>756</b>		<b>1659</b>		<b>1509</b>	
<b>初めての診療科が眼科</b>																
専門医	<b>0.613</b>	0.487	<b>0.745</b>	0.436	<b>0.589</b>	0.492	<b>0.854</b>	0.354	<b>0.612</b>	0.487	<b>0.738</b>	0.440	<b>0.609</b>	0.488	<b>0.811</b>	0.392
基本領域	<b>0.610</b>	0.488	<b>0.739</b>	0.439	<b>0.589</b>	0.492	<b>0.850</b>	0.357	<b>0.612</b>	0.487	<b>0.734</b>	0.442	<b>0.605</b>	0.489	<b>0.809</b>	0.394
サブスペシヤルティ領域	<b>0.005</b>	0.069	<b>0.013</b>	0.115	<b>0.002</b>	0.045	<b>0.018</b>	0.132	<b>0.000</b>	0.000	<b>0.008</b>	0.091	<b>0.006</b>	0.080	<b>0.007</b>	0.086
眼科	<b>0.968</b>	0.175	<b>0.935</b>	0.247	<b>0.978</b>	0.147	<b>0.949</b>	0.220	<b>0.972</b>	0.164	<b>0.948</b>	0.222	<b>0.975</b>	0.158	<b>0.958</b>	0.200
N	<b>1454</b>		<b>1487</b>		<b>999</b>		<b>1925</b>		<b>1008</b>		<b>845</b>		<b>785</b>		<b>1343</b>	
<b>初めての診療科が皮膚科</b>																
専門医	<b>0.505</b>	0.500	<b>0.697</b>	0.460	<b>0.428</b>	0.495	<b>0.793</b>	0.405	<b>0.432</b>	0.496	<b>0.606</b>	0.489	<b>0.398</b>	0.490	<b>0.719</b>	0.450
基本領域	<b>0.501</b>	0.500	<b>0.685</b>	0.465	<b>0.419</b>	0.494	<b>0.777</b>	0.416	<b>0.426</b>	0.495	<b>0.598</b>	0.491	<b>0.394</b>	0.489	<b>0.712</b>	0.453
サブスペシヤルティ領域	<b>0.033</b>	0.178	<b>0.193</b>	0.395	<b>0.023</b>	0.149	<b>0.158</b>	0.365	<b>0.016</b>	0.125	<b>0.060</b>	0.237	<b>0.015</b>	0.123	<b>0.053</b>	0.225
皮膚科	<b>0.901</b>	0.299	<b>0.652</b>	0.477	<b>0.922</b>	0.268	<b>0.794</b>	0.404	<b>0.933</b>	0.250	<b>0.906</b>	0.293	<b>0.948</b>	0.222	<b>0.908</b>	0.289
N	<b>705</b>		<b>1045</b>		<b>527</b>		<b>1069</b>		<b>882</b>		<b>519</b>		<b>1044</b>		<b>937</b>	
<b>初めての診療科が耳鼻咽喉科</b>																
専門医	<b>0.671</b>	0.470	<b>0.837</b>	0.370	<b>0.660</b>	0.474	<b>0.927</b>	0.260	<b>0.701</b>	0.458	<b>0.763</b>	0.426	<b>0.648</b>	0.478	<b>0.872</b>	0.334
基本領域	<b>0.668</b>	0.471	<b>0.832</b>	0.374	<b>0.658</b>	0.475	<b>0.923</b>	0.267	<b>0.695</b>	0.461	<b>0.763</b>	0.426	<b>0.644</b>	0.479	<b>0.868</b>	0.339
サブスペシヤルティ領域	<b>0.061</b>	0.240	<b>0.121</b>	0.326	<b>0.048</b>	0.215	<b>0.150</b>	0.357	<b>0.048</b>	0.215	<b>0.086</b>	0.280	<b>0.031</b>	0.173	<b>0.096</b>	0.295
耳鼻いんこう科	<b>0.954</b>	0.210	<b>0.933</b>	0.250	<b>0.962</b>	0.192	<b>0.932</b>	0.252	<b>0.949</b>	0.220	<b>0.926</b>	0.263	<b>0.954</b>	0.210	<b>0.930</b>	0.255
N	<b>1207</b>		<b>1199</b>		<b>1013</b>		<b>1572</b>		<b>454</b>		<b>256</b>		<b>454</b>		<b>500</b>	



表6：初職と現職の関係（続）

	男性 2010				男性 2016				女性 2010				女性 2016			
	30-39		40-49		30-39		40-49		30-39		40-49		30-39		40-49	
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
<b>初めての診療科が放射線科</b>																
専門医	<b>0.607</b>	0.489	<b>0.792</b>	0.406	<b>0.645</b>	0.479	<b>0.875</b>	0.331	<b>0.581</b>	0.494	<b>0.717</b>	0.451	<b>0.669</b>	0.471	<b>0.836</b>	0.371
基本領域	<b>0.585</b>	0.493	<b>0.772</b>	0.420	<b>0.633</b>	0.482	<b>0.850</b>	0.357	<b>0.566</b>	0.496	<b>0.705</b>	0.457	<b>0.664</b>	0.473	<b>0.811</b>	0.392
サブスペシヤルティ領域	<b>0.107</b>	0.310	<b>0.131</b>	0.337	<b>0.078</b>	0.268	<b>0.170</b>	0.375	<b>0.080</b>	0.272	<b>0.112</b>	0.315	<b>0.065</b>	0.246	<b>0.173</b>	0.379
放射線科	<b>0.844</b>	0.363	<b>0.758</b>	0.429	<b>0.914</b>	0.280	<b>0.776</b>	0.417	<b>0.866</b>	0.341	<b>0.732</b>	0.444	<b>0.934</b>	0.249	<b>0.757</b>	0.429
N	<b>1090</b>		<b>1064</b>		<b>1167</b>		<b>1341</b>		<b>449</b>		<b>250</b>		<b>589</b>		<b>445</b>	
<b>初めての診療科が麻酔科</b>																
専門医	<b>0.493</b>	0.500	<b>0.766</b>	0.423	<b>0.590</b>	0.492	<b>0.837</b>	0.369	<b>0.458</b>	0.498	<b>0.710</b>	0.454	<b>0.524</b>	0.500	<b>0.771</b>	0.420
基本領域	<b>0.470</b>	0.499	<b>0.737</b>	0.441	<b>0.572</b>	0.495	<b>0.799</b>	0.401	<b>0.446</b>	0.497	<b>0.692</b>	0.462	<b>0.512</b>	0.500	<b>0.752</b>	0.432
サブスペシヤルティ領域	<b>0.078</b>	0.268	<b>0.186</b>	0.389	<b>0.069</b>	0.254	<b>0.223</b>	0.417	<b>0.042</b>	0.201	<b>0.127</b>	0.334	<b>0.039</b>	0.192	<b>0.134</b>	0.341
麻酔科	<b>0.579</b>	0.494	<b>0.578</b>	0.494	<b>0.770</b>	0.421	<b>0.501</b>	0.500	<b>0.771</b>	0.421	<b>0.672</b>	0.470	<b>0.894</b>	0.307	<b>0.679</b>	0.467
N	<b>1842</b>		<b>1463</b>		<b>1689</b>		<b>2083</b>		<b>1203</b>		<b>448</b>		<b>1609</b>		<b>966</b>	
<b>初めての診療科が脳神経外科</b>																
専門医	<b>0.653</b>	0.476	<b>0.828</b>	0.377	<b>0.638</b>	0.481	<b>0.907</b>	0.290	<b>0.566</b>	0.497	<b>0.559</b>	0.500	<b>0.539</b>	0.500	<b>0.864</b>	0.344
基本領域	<b>0.647</b>	0.478	<b>0.820</b>	0.385	<b>0.634</b>	0.482	<b>0.898</b>	0.303	<b>0.549</b>	0.499	<b>0.559</b>	0.500	<b>0.528</b>	0.501	<b>0.838</b>	0.370
サブスペシヤルティ領域	<b>0.074</b>	0.261	<b>0.125</b>	0.331	<b>0.113</b>	0.317	<b>0.197</b>	0.398	<b>0.052</b>	0.223	<b>0.059</b>	0.237	<b>0.078</b>	0.269	<b>0.130</b>	0.337
脳神経外科	<b>0.881</b>	0.324	<b>0.813</b>	0.390	<b>0.931</b>	0.253	<b>0.821</b>	0.383	<b>0.746</b>	0.437	<b>0.618</b>	0.490	<b>0.839</b>	0.369	<b>0.649</b>	0.479
N	<b>1373</b>		<b>1318</b>		<b>1306</b>		<b>1798</b>		<b>173</b>		<b>68</b>		<b>180</b>		<b>154</b>	
<b>初めての診療科が整形外科</b>																
専門医	<b>0.565</b>	0.496	<b>0.813</b>	0.390	<b>0.506</b>	0.500	<b>0.894</b>	0.307	<b>0.469</b>	0.500	<b>0.786</b>	0.412	<b>0.469</b>	0.500	<b>0.806</b>	0.396
基本領域	<b>0.563</b>	0.496	<b>0.809</b>	0.393	<b>0.504</b>	0.500	<b>0.889</b>	0.314	<b>0.466</b>	0.500	<b>0.779</b>	0.416	<b>0.469</b>	0.500	<b>0.801</b>	0.400
サブスペシヤルティ領域	<b>0.045</b>	0.206	<b>0.150</b>	0.357	<b>0.012</b>	0.110	<b>0.125</b>	0.330	<b>0.046</b>	0.210	<b>0.143</b>	0.351	<b>0.016</b>	0.127	<b>0.098</b>	0.298
整形外科	<b>0.946</b>	0.226	<b>0.937</b>	0.244	<b>0.966</b>	0.181	<b>0.931</b>	0.253	<b>0.829</b>	0.377	<b>0.825</b>	0.381	<b>0.891</b>	0.312	<b>0.770</b>	0.422
N	<b>3497</b>		<b>3292</b>		<b>3338</b>		<b>4263</b>		<b>368</b>		<b>154</b>		<b>368</b>		<b>343</b>	

表 7：専門医の分析：初めての診療科が外科、内科、産婦人科の場合

	初めての診療科：外科			初めての診療科：内科			初めての診療科：産婦人科		
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)
	外科専門医	左記以外の基本領域	サブスペ	総合内科専門医	左記以外の基本領域	サブスペ	産婦人科専門医	左記以外の基本領域	サブスペ
年齢: 35-39	0.2527*** (0.0082)	0.0132*** (0.0044)	0.2134*** (0.0065)	0.0699*** (0.0027)	0.0073*** (0.0026)	0.2489*** (0.0046)	0.1431*** (0.0131)	0.0147*** (0.0042)	0.0705*** (0.0076)
年齢: 40-44	0.2973*** (0.0121)	0.0015 (0.0077)	0.3490*** (0.0104)	0.1559*** (0.0046)	-0.0110** (0.0045)	0.3129*** (0.0071)	0.1506*** (0.0178)	0.0365*** (0.0086)	0.1472*** (0.0137)
年齢: 45-49	0.2622*** (0.0161)	-0.0153 (0.0105)	0.3393*** (0.0151)	0.1706*** (0.0070)	-0.0154** (0.0060)	0.2830*** (0.0097)	0.1153*** (0.0236)	0.0466*** (0.0127)	0.1338*** (0.0206)
女性	-0.1376*** (0.0104)	0.0445*** (0.0073)	-0.0804*** (0.0090)	-0.0192*** (0.0032)	0.0061** (0.0027)	-0.0815*** (0.0047)	0.0223** (0.0096)	-0.0101** (0.0051)	-0.0655*** (0.0084)
log(市区町村人口)	0.0244*** (0.0026)	0.0035** (0.0016)	0.0322*** (0.0025)	0.0114*** (0.0011)	0.0026*** (0.0009)	0.0286*** (0.0015)	0.0145*** (0.0041)	0.0015 (0.0021)	0.0145*** (0.0034)
1970年代生まれ	-0.0024 (0.0114)	-0.0180** (0.0078)	-0.0049 (0.0125)	-0.0096 (0.0061)	-0.0034 (0.0044)	0.0073 (0.0076)	-0.0471*** (0.0168)	0.0199* (0.0106)	0.0012 (0.0183)
1980年代生まれ	-0.0029 (0.0181)	-0.1181*** (0.0118)	-0.1180*** (0.0170)	-0.0648*** (0.0080)	-0.0949*** (0.0068)	-0.1025*** (0.0110)	-0.1336*** (0.0261)	0.0020 (0.0136)	-0.0644*** (0.0235)
R <sup>2</sup>	0.0798	0.0280	0.1539	0.0756	0.0227	0.1177	0.0713	0.0259	0.0889
N	49721	49721	49721	143027	143027	143027	16868	16868	16868

表7：専門医の分析：初めての診療科が小児科、放射線科、麻酔科の場合（続）

	初めての診療科：小児科			初めての診療科：麻酔科			初めての診療科：放射線科		
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)
	小児科 専門医	左記以 外の基 本領域	サブスペ	麻酔科 専門医	左記以 外の基 本領域	サブスペ	放射線 科専門 医	左記以 外の基 本領域	サブスペ
年齢：35-39	0.1878*** (0.0110)	0.0120*** (0.0038)	0.1107*** (0.0071)	0.3124*** (0.0113)	0.0395*** (0.0080)	0.0490*** (0.0057)	0.1748*** (0.0172)	0.0055 (0.0065)	0.0559*** (0.0095)
年齢：40-44	0.1843*** (0.0164)	0.0228*** (0.0076)	0.1858*** (0.0129)	0.3194*** (0.0185)	0.0735*** (0.0153)	0.0913*** (0.0119)	0.2070*** (0.0232)	0.0115 (0.0111)	0.0633*** (0.0155)
年齢：45-49	0.1524*** (0.0224)	0.0150 (0.0109)	0.1870*** (0.0191)	0.3397*** (0.0259)	0.0381* (0.0219)	0.0870*** (0.0183)	0.1683*** (0.0305)	0.0059 (0.0151)	0.0629*** (0.0225)
女性	0.0369*** (0.0089)	-0.0135*** (0.0043)	0.0431*** (0.0077)	0.0804*** (0.0110)	-0.1227*** (0.0081)	0.0501*** (0.0072)	-0.0017 (0.0138)	-0.0004 (0.0068)	-0.0069 (0.0103)
log(市区町村人口)	0.0305*** (0.0037)	0.0020 (0.0018)	0.0308*** (0.0030)	0.0257*** (0.0043)	0.0038 (0.0035)	0.0035 (0.0030)	0.0185*** (0.0058)	0.0002 (0.0028)	0.0087** (0.0040)
1970年代生まれ	-0.0459*** (0.0168)	-0.0065 (0.0095)	0.0127 (0.0166)	-0.0400* (0.0214)	-0.0133 (0.0188)	-0.0316* (0.0166)	-0.0077 (0.0222)	-0.0080 (0.0118)	-0.0133 (0.0182)
1980年代生まれ	-0.1580*** (0.0250)	0.0446*** (0.0126)	0.0833*** (0.0215)	-0.0441 (0.0291)	-0.1474*** (0.0249)	0.1049*** (0.0207)	0.1554*** (0.0339)	0.0446*** (0.0171)	0.0702*** (0.0248)
R <sup>2</sup>	0.0894	0.0203	0.0956	0.1146	0.0958	0.0682	0.0932	0.0225	0.0374
N	24543	24543	24543	20248	20248	20248	11551	11551	11551

表7：専門医の分析：初めての診療科が耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科の場合（続）

	初めての診療科：耳鼻咽喉科			初めての診療科：皮膚科			初めての診療科：眼科		
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)
	耳鼻咽喉科専門医	左記以外の基本領域	サブスペ	皮膚科専門医	左記以外の基本領域	サブスペ	眼科専門医	左記以外の基本領域	サブスペ
年齢：35-39	0.2604*** (0.0173)	0.0085** (0.0038)	0.0430*** (0.0073)	0.2484*** (0.0179)	0.0143*** (0.0046)	0.0160*** (0.0054)	0.2217*** (0.0154)	0.0061*** (0.0022)	0.0043* (0.0022)
年齢：40-44	0.2614*** (0.0229)	0.0119* (0.0071)	0.0895*** (0.0132)	0.2823*** (0.0263)	0.0305*** (0.0094)	0.0495*** (0.0112)	0.2184*** (0.0201)	0.0152*** (0.0043)	0.0086** (0.0036)
年齢：45-49	0.2151*** (0.0288)	0.0122 (0.0106)	0.1123*** (0.0196)	0.2404*** (0.0351)	0.0748*** (0.0170)	0.0807*** (0.0181)	0.1849*** (0.0257)	0.0198*** (0.0065)	0.0096* (0.0056)
女性	-0.0213* (0.0128)	-0.0081* (0.0043)	-0.0222** (0.0090)	0.0172 (0.0149)	-0.0858*** (0.0075)	-0.0698*** (0.0080)	0.0081 (0.0100)	-0.0129*** (0.0030)	-0.0052** (0.0023)
log(市区町村人口)	0.0085* (0.0045)	0.0026 (0.0020)	0.0060* (0.0035)	0.0094 (0.0058)	0.0003 (0.0033)	0.0094*** (0.0034)	0.0087** (0.0041)	0.0023* (0.0013)	0.0001 (0.0010)
1970年代生まれ	-0.0245 (0.0179)	-0.0092 (0.0090)	0.0202 (0.0160)	0.1262*** (0.0260)	-0.0933*** (0.0154)	-0.0619*** (0.0162)	-0.0102 (0.0166)	-0.0036 (0.0057)	-0.0025 (0.0049)
1980年代生まれ	-0.2505*** (0.0310)	-0.0200 (0.0122)	-0.0152 (0.0214)	-0.0831** (0.0389)	-0.0919*** (0.0192)	-0.0725*** (0.0207)	-0.2250*** (0.0283)	-0.0024 (0.0076)	-0.0025 (0.0065)
R <sup>2</sup>	0.1773	0.0141	0.0557	0.1278	0.1150	0.0844	0.1145	0.0189	0.0096
N	11857	11857	11857	11638	11638	11638	17547	17547	17547

表 7：専門医の分析：初めての診療科が脳神経外科、整形外科、泌尿器科の場合（続）

	初めての診療科：脳神経外科			初めての診療科：整形外科			初めての診療科：泌尿器科		
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)
	脳神経外科専門医	左記以外の基本領域	サブスペ	整形外科専門医	左記以外の基本領域	サブスペ	泌尿器科専門医	左記以外の基本領域	サブスペ
年齢：35-39	0.2646*** (0.0176)	0.0162** (0.0066)	0.0817*** (0.0105)	0.3681*** (0.0112)	0.0228*** (0.0035)	0.0377*** (0.0037)	0.2766*** (0.0175)	0.0054 (0.0054)	0.0343*** (0.0079)
年齢：40-44	0.2546*** (0.0242)	0.0474*** (0.0135)	0.1013*** (0.0170)	0.4235*** (0.0147)	0.0533*** (0.0064)	0.1024*** (0.0076)	0.2917*** (0.0225)	0.0098 (0.0099)	0.0749*** (0.0139)
年齢：45-49	0.2065*** (0.0315)	0.0619*** (0.0193)	0.0692*** (0.0237)	0.4227*** (0.0186)	0.0647*** (0.0099)	0.1266*** (0.0123)	0.2712*** (0.0288)	0.0066 (0.0133)	0.0782*** (0.0203)
女性	-0.1432*** (0.0243)	0.0323** (0.0158)	-0.0350** (0.0152)	-0.1013*** (0.0152)	0.0691*** (0.0107)	-0.0081 (0.0084)	-0.0601** (0.0238)	0.0358** (0.0159)	-0.0076 (0.0156)
log(市区町村人口)	0.0150*** (0.0051)	-0.0025 (0.0036)	0.0015 (0.0039)	0.0125*** (0.0027)	0.0005 (0.0016)	0.0001 (0.0021)	0.0122*** (0.0044)	0.0039** (0.0020)	0.0056* (0.0033)
1970年代生まれ	-0.0384* (0.0214)	0.0025 (0.0159)	0.0156 (0.0186)	-0.0275** (0.0124)	-0.0108 (0.0086)	-0.0269** (0.0113)	-0.0133 (0.0191)	-0.0045 (0.0106)	-0.0328* (0.0176)
1980年代生まれ	-0.2345*** (0.0347)	-0.0511** (0.0215)	-0.0520** (0.0264)	-0.2150*** (0.0202)	-0.0233** (0.0111)	-0.0331** (0.0140)	-0.1857*** (0.0315)	-0.0381** (0.0155)	-0.0643*** (0.0235)
R <sup>2</sup>	0.1597	0.0370	0.0536	0.2591	0.0283	0.0580	0.1706	0.0218	0.1035
N	11688	11688	11688	28861	28861	28861	10788	10788	10788